

残留日本兵家族訪日壮行会における挨拶（2017年10月17日）

皆さん今晚は！

明日から一週間、皆さんは、日本を訪問されます。ようやくこの日を迎えることが出来たとの感がありますが、今回の訪日がどのように準備されたかについて、ご説明申し上げます。

本年3月、皆さんは、当地ハノイで天皇・皇后両陛下とお会いになりました。非常に感動的な会合でした。特に、皇后陛下がスアンさんを抱きしめられた姿は、多くの人の魂を揺さぶりました。

会合の様子は、日本の多くのテレビ・新聞、ソーシャルメディアで報じられました。その結果、これまで一部の人しか知らなかった次のような歴史の事実を多くの日本人が知ることになりました。

具体的には、①皆さんのお父さんが抗仏戦争をベトナム人と共に戦い、ベトナム独立のために大きな貢献をされたこと、②残留日本兵の多くは、やむを得ざる事情で家族をベトナムに残し、日本に帰国せざるを得なかったこと、③残された家族が日本に対し熱い気持ちを持ちながら、今もベトナムで健在であること等です。これらの事実を知り、多くの日本人のベトナムへの「親近感」は、確実に強まりました。

その後、大使館は、小松みゆきさんの記事（5月3日付読売新聞）を通じ、両陛下との会合後、皆さんの夢は、「お父さんの国—日本を一度でいいから訪問したい」ということであると知りました。

その記事を読んだ後、日本大使館として、「皆さんの夢を今年中に必ず実現する」との決意の下、検討を開始しました。ハノイ日本商工会の役員の方々、杉良太郎日越・越日友好特別大使、服部医師をはじめベトナムにゆかりの深いの方々等から、好意的な支持と有益な助言をいただきました。

その結果、8月、資金面では、日本財団（笹川陽平会長）の支援を得ること、関西での歓迎会は、加藤日越堺友好協会会長に主催いただくこと、「元残留日本兵の御家族の日本訪問を支援する会」を作ること、小松さんに全行程に同行いただくこと、具体的アレンジはタガー・トラベル社（小林さん、福本さん、清見さん）にお願いすること等「訪日準備の骨格」が決まりました。

また、ファン・ホアン・チャウさんのお父様で元残留日本兵である加茂徳治さんのお墓参りのアレンジのため、坪井早稲田大学教授からの協力もいただきました。本日の壮行会には、「元残留日本兵の御家族の日本訪問を支援する会」の古田日越大学学長及び本名ベト

ナム国立交響楽団首席指揮者にもお越しいただいております。本名先生には奈良東大寺の狭川別当さがわべっとうに御連絡いただきました。関係者の方々からの様々なご協力に心から感謝を申し上げます。

今回の皆さんの日本訪問は、皆さんの夢を叶えるという意義のみならず、日越間の歴史の「絆」について相互理解を深め、友好関係の更なる強化に資すると確信します。そして、何よりも明日からの日本訪問が、皆様の人生にとって、「有意義な内容」になることを心より祈念します。

日本は、季節の変わり目で、日々寒くなってきています。体調管理にくれぐれもお気を付けください。

以上をもって、訪日前夜の私の皆様への「はなむけの言葉」と致します。ご清聴、有難うございました。

2017年10月17日 在ベトナム日本大使 梅田邦夫